# 図書案内 2019年

2019年 11月号

担当 1-6 岩折 1-6 串田



### 『大江戸おもしろ商売』 北嶋廣敏

この本は、100万人が暮らす世界最大の消費都市・江戸で行われていた 100種以上の商売や仕事を、川柳や図とともに紹介している。なかには「お ちゃない」という落ちた髪を買い集める商売や、「十九文店」と呼ばれた今 で言う 100 円ショップがあったとか。

コラムとあわせて読めば、当時の様子がより詳しくわかるはず。(岩折)

#### 江戸の清涼飲料は白玉入り

## 働くことに関する本

11月になりました。23日には「勤労感謝の日」があります。この日には「勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝し合う」という趣旨があり、また、一年で最後の祝日になります。周りの人たちに日頃の感謝を伝え、互いに労うことができるといいですね。そこで今回は、働くことに関する本を紹介します。本を通して仕事の楽しさや苦労を読み取ってみませんか。働く人の気持ちが分かるかもしれません。本は図書館で貸出しています。

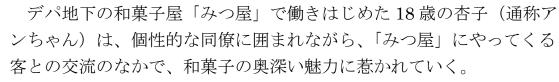


### 『仕事が人をつくる』 小関智弘

日本には数え切れないほどの小さな工場がある。しかも、その中には、とても大きな海外の企業と張り合っているところもある。彼らはなぜ、そんなにも高い技術を手に入れることができたのか。この本には「町工場」で働いている、働くことを生きがいとしているような人たちの話が 10 話収録されている。少し難しい内容となっているが、普段は知ることのできない話を読んで「働くこと」について考えてみてほしい。(串田)

人は働きながら、その人となってゆく。





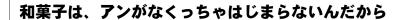
デパ地下ならではの謎や、和菓子に込められた意味などが詰まったミステリー小説。柔らかい文体とあたたかい内容で楽しく読み進めることができます。これを読めばあなたも和菓子を食べたくなるかも!?(岩折)



### 『珈琲店タレーランの事件簿』 岡崎琢磨

京都にある珈琲店「タレーラン」で、聡明でどこか掴み所の無い女性バリスタ・切間美星が、店に舞い込んでくる日常の謎を鮮やかに解き明かす。『このミステリーがすごい!』大賞で最終選考まで残った作品。ミステリー小説ですが、軽めの謎、軽めの会話で読みやすくなっています。少しずつ明かされていく真実にあなたもきっと驚くはず!(岩折)

その謎、たいへんよく挽けました。



### 「別腹」は脳が関係している!?

11 月となり、秋もいよいよ終わりへと近づき始めましたね。秋と言えば、「芸術の秋」「運動の秋」など、いろいろありますよね。その中でも忘れてはならないのが「食欲の秋」です。そこで今回は「食欲」に関する豆知識をひとつご紹介します。みなさん、「別腹」という言葉を知っていますよね。お腹いっぱいに食べた後でもデザートをぺろりと食べることができてしまう、というアレです。実は、アレは科学的に説明がされているのです。それによると、お腹がいっぱいであるときに、味や見た目に「変化」が起きると、脳内にオレキシンが分泌されます。すると、体はエネルギーが満たされていても、今までに無い「報酬」への期待が生まれ、食欲が復活します。そして、それが小さな精神的興奮を呼び、自律神経系を介して胃腸の働きが活発になり、胃にゆとりが生まれます。こうして「別腹」ができる、のだそうです。

皆さん、「読書の秋」です。ぜひ活字と触れ合って、良い秋をお過ごしください。

【出典】『食欲の科学』 櫻井武・著 講談社 2012年

